

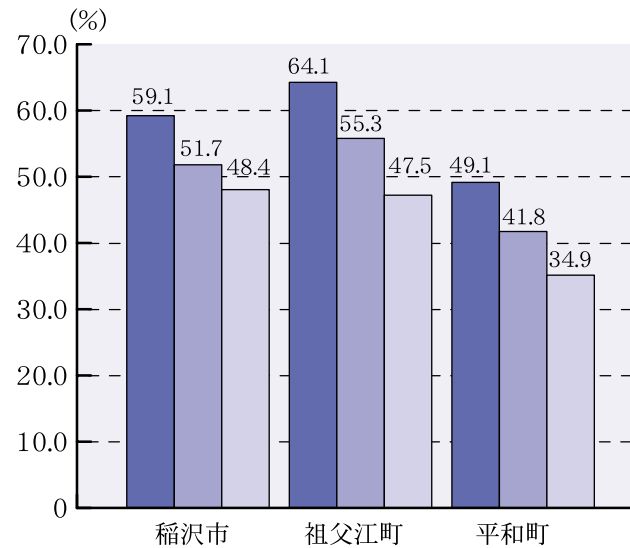
1市2町の結びつき

通勤流動

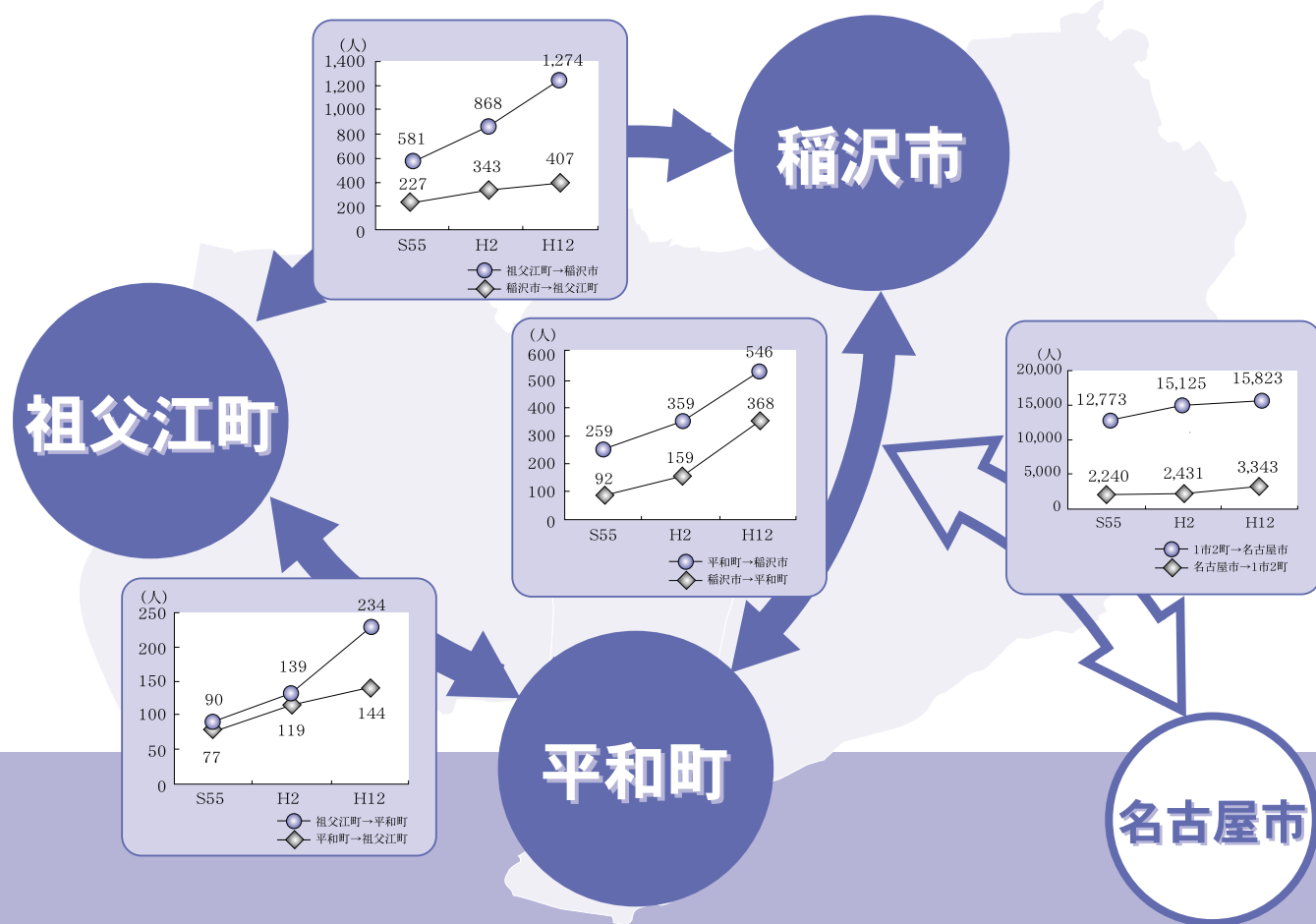
1市2町における自市町内での就業者数は、昭和55年(1980年)以降、次第に低下し、平成12年には1市2町のいずれにおいても、半数以上が市町の区域を越えて、他の市町へ通勤しています。また、1市2町相互間の通勤流動は年々増加する傾向にあるのに対して、1市2町から名古屋市への通勤者数は平成2年以降の10年間にはあまり増加しておらず、逆に、名古屋市からの通勤者数が増加しています。



▼1市2町における自市町内就業率の推移
資料「国勢調査」総務省統計局



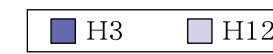
▼他市町村への通勤者数の推移
資料「国勢調査」総務省統計局



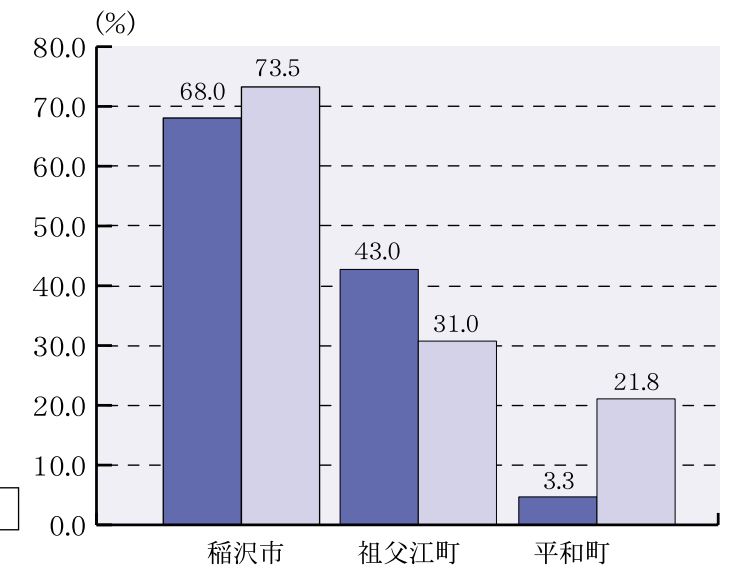
購買動向

洋服、レジャー用品、電気製品といった買回品の購買動向をみると、稲沢市の市内購買率が3/4に上っているのに対して、祖父江町の町内購買率は平成3年から12年にかけて低下し、31.0%となっています。一方、平和町の町内購買率は、大型店舗の出店等により大きく上昇しましたが、なお21.8%にとどまっています。

1市2町相互間の購買動向をみると、祖父江町から稲沢市への流入が25.5%から40.4%、平和町から稲沢市への流入が17.2%から25.0%と増加し、稲沢市圏としての結びつきを深めていることを示しています。



▼1市2町における自市町内購買率(買回品)の推移
資料「愛知県消費者購買動向調査」愛知県産業労働部



▼他市町村購買率(買回品)の推移
資料「愛知県消費者購買動向調査」愛知県産業労働部

